

## 天 堂 星

この星は人生にたとえますと、老年期を迎えた時代、それが天堂星の世界なのです。

効成り名を遂げた者たちが、一步退いて次の世代に位を譲る時間世界ともいえます。この世代の者をして老人・隠居などと呼ぶのですが、自分に課せられた役目も終わり心静かに世生をたのしむ姿が天堂星世界の姿です。そこに存在するものは一種の悟りであり、諦めであるかも知れません。

物静かな中に鍛えられた理性と知性をもち、自ら行動を起こすことがありません。そして、人生の進み方は粘り強く常に一定の速度で変化させる事はないのです。

また大衆のなかに入っても自分からの発言を避けるのが天堂星の性情特色ですが、促されて発言する場合にも全体的なバランスにのっとった意見を発するのです。

この全体的バランスは天堂星がもつ特色の一つですが、とりもなおさず精神理論によるバランスなのです。

また、天堂星世界には身は現実面にあって心の中では精神的なものを追い求める習性があり、常に精神向上を計ろうとするのです。そのため完全な悟りを開けないという悩みある世界なのです。

■初年運(人体星図の肩のところに割り出された星で、この位置を算命術では「初元」の場所と言っています。)

生れてから成人に達するまでの初年運をみます。主として子供の頃に現れる性格や希望が現われますが、この星は青年になる迄のものの考え方や性格づけが発揮されるとともに、本人一生の性格として持ち続けられる星でもあります。三つ子の魂、百まで…のたとえで子供のころの性格は大人になっても消えるものではありません。

●人体星図に天報星が二つ以上出ている人は、

■中年運(人体星図の左足の位置に割り出された星で、この位置を算命術では「中元」の場所と言っています。)

青春期から壮年期にかけての運勢を算定します。人生のアイデンティティ(役目意識)はここに算出された星から生まれます。また職業意識や社会観なども、この星から生まれると云っても過言ではないでしょう。

■晩年運(人体星図の右足の位置に割り出された星です。)

晩年期の運勢を算定します。人生の究極においてどのような人間性と悟りが持てるかをこの星で量ります。算命術では、この位置を「本元」とも言いますが、それは人生を生き抜いて来た社会に対する役目や価値を見つけ出す大切な場所という意味からです。